

ごみ処理場



しのざき 篠崎

さとし 聡 議員



質問者の録画映像
はこちらから

篠崎 田村西部環境センターが、町の単独運転となるが、炉の耐久性に問題はないのか。

町長 田村市からのゴミの搬入がなくなると、例えば3日運転して4日休むなどの間欠運転の運営となる見込み。炉の負担が生じるため、定期点検や補修による予防保全に努め、影響を最小限に抑えていく。

篠崎 田村西部環境センターを、いつまで町単独で稼働できるのか。

町長 田村地方では、10年後を目標に共同処理の検討を進めている。令和18年度まで単独運転が必要とされる。施設が老朽化していることから、概ね5年程度を運転単位とし、計画的な補修・予防保全により運営する。施設状況によっては、外部委託処理を組み合わせた処理体制とする。また、広域化の再編



田村西部環境センター

については、県が中心となり積極的関与や調整を行うことを期待している。

篠崎 焼却灰※1は、最終的にどこで処分するのか。

町長 焼却灰は町の最終処分場、飛灰※2は無害化処理や安定化に手間がかかるので、民間事業者が運営する最終処分場に委託している。

Q いつまで町単独の運営になるのか

A 令和18年度までを目標に町単独運営する

三春方式のまちづくり



さんべい 三瓶

かつとし 一壽 議員



質問者の録画映像
はこちらから

三瓶 急激な人口減少など、少子高齢化が進んでいるなか、三春町の将来に向けて、三春方式コンパクトシティ※のあり方を検討すべきでは。

町長 長期計画では、町内7地区で地区単位ごとに「支え合う地域づくり、持続発展する地域づくり」を掲げ、それぞれの地域の特性を踏まえたまちづくりを進めることとしている。旧町地区は都市機能が集約されているが、空き家等が増加してきており、中心市街地としての機能維持が課題。岩江地区は居住者が多いが都市機能の集積がない点が課題。7つの地域ごとにまとまった取り組みを進めることが、町全体のコンパクトシティにつながると考える。

三瓶 三春町の進めるコンパクトシティとは、町中心部への集積型ではなく、中山間地の既存都市構

Q 三春式コンパクトシティのあり方は

A 7地区ごとに小さな拠点づくりを進める

造を活かした既存分散型ととらえてもよい。

町長 2択のどちらに当てはまるかは言いがたい。各地区で小さな拠点づくりを進める一方、内容によっては立地誘導も考えながら、各地区の状況、特性に応じたまちづくりを進めていく。

数値で見る2035年の三春町（予測）

	現 在		2035年	
人口推移	16,299	人	13,900	人
生産年齢人口	8,180	人	6,670	人
町の一般会計	86	億円	78.5	億円